

# 伊那谷・経済動向

## 中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN  
BANK

主要指標		今 期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)		2022/5 1.47 倍	2021/5 1.19 倍	前年同月比 0.28 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新 車	4,645 台	5,401 台	-14.00 %
	中古車	2,208 台	2,262 台	-2.39 %
	合 計	6,853 台	7,663 台	-10.57 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		3~5月 213 件	3~5月 220 件	-3.18 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		16,394 人	7,283 人	125.10 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	267,821 台	236,212 台	13.38 %
	出	253,261 台	226,707 台	11.71 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	276,494 台	247,447 台	11.74 %
	出	289,429 台	256,228 台	12.96 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	132,359 台	108,577 台	21.90 %
	出	130,382 台	109,002 台	19.61 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	227,866 台	199,156 台	14.42 %
	出	230,884 台	201,180 台	14.76 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	62,746 台	56,150 台	11.75 %
	出	57,922 台	48,951 台	18.33 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	166,810 台	148,739 台	12.15 %
	出	160,409 台	144,292 台	11.17 %

前期 1 - 3月 今期 4 - 6月 来期 7 - 9月 10 - 12月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先192社に対し、2022年4月～6月期の景気の現状と2022年7月～9月期の見通しを調査したものです。

## 地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**20.3%**（前期**19.4%**）、悪かったとする企業は**42.4%**（前期**44.1%**）であった。業種別に見ると、良かったとする企業の割合が最も多かったのは**製造業**で**25.0%**（前期**23.4%**）、続いて**小売業**が**24.2%**（前期**18.8%**）、**建設業と不動産業**が**16.7%**（前期それぞれ**25.6%**、**40.0%**）の順となった。また、悪かったとする企業が多かった業種は、**サービス業**で**66.7%**（前期**85.7%**）、続いて**小売業**が**57.6%**（前期**53.1%**）、**製造業**が**42.2%**（前期**42.2%**）の順であった。

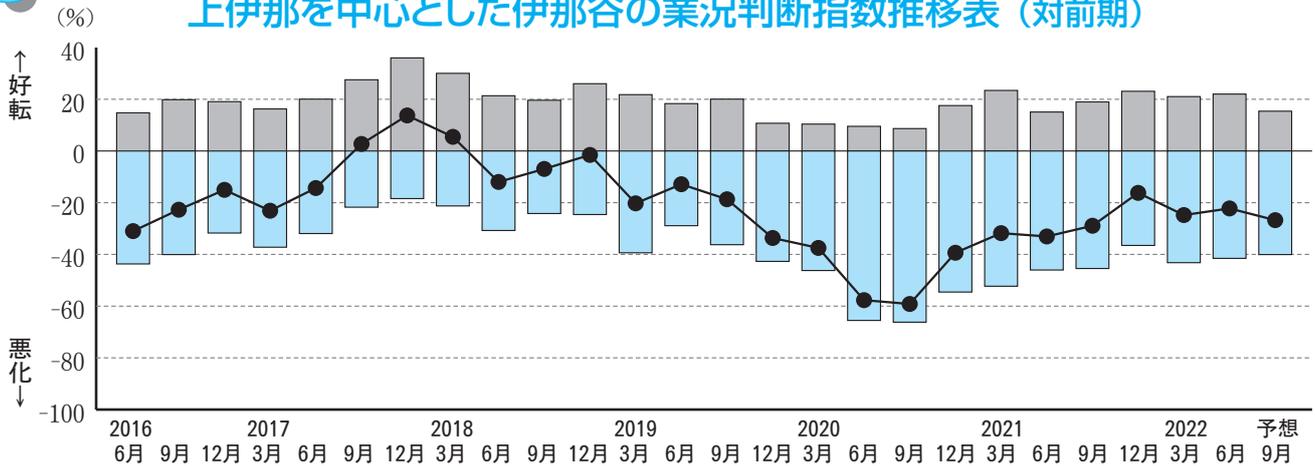
DIを総合的に見ると**▲22.0**（前期**▲24.7**）と**2.7**ポイントの上昇で、マイナス幅が縮小している。

業種別にDIを見ると、**不動産業**が**16.7**（前期**40.0**）で唯一プラス領域に残ったが、対前期**▲23.3**ポイントで最も減少した。また、**建設業**は**▲9.5**（前期**5.1**）と**▲14.6**ポイントでプラス領域からマイナス領域に転じている。他の業種も**サービス業**が**▲54.2**（前期**▲85.7**）、**小売業**が**▲33.3**（前期**▲34.4**）、**卸売業**が**▲12.5**（前期**▲55.6**）、**製造業**が**▲17.2**（前期**▲18.8**）と改善傾向にはあるが水面下からは脱出できない状況。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は**14.2%**（今期**20.3%**）、悪いと予想する企業は**40.9%**（今期**42.4%**）、DIは**▲26.7**（今期**▲22.0**）で**4.7**ポイント下降し、僅かながら悪化する予想となっている。

業種別のDIを見ると、**不動産業**が今期と変わらず**16.7**で好調感を維持する予想であるが、他の業種はすべてマイナス領域の予想をしており、**小売業****▲42.4**、**サービス業****▲41.7**、**製造業****▲29.7**、**卸売業****▲12.5**、**建設業****▲9.8**ポイントとなっている。今期と比較すると、今期を上回ると予想する業種は**サービス業**のみで**12.5**ポイント良化、**卸売業**と**不動産業**は今期と変わらない予想、**製造業**が**▲12.5**ポイント、**小売業**が**▲9.1**ポイント、**建設業**が**▲0.3**ポイントと今期を下回る予想となった。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



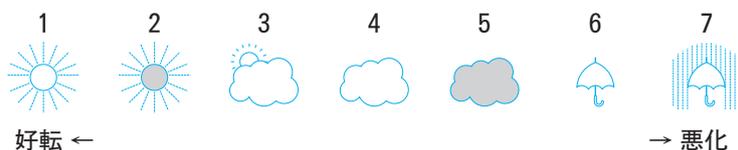
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

## 業種別天気図

業種	時期	2021年 10～12月期	2022年 1～3月期	2022年 4～6月期予想	2022年 7～9月期予想
総合					
製造業					
建設業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
不動産業					



## 製造業 (調査先企業72社 うち回答企業64社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**25.0%**（前期**23.4%**）、悪かったとする企業は**42.2%**（前期**42.2%**）、DIは**▲17.2**（前期**▲18.8**）でプラス**1.6**ポイントとやや上向いている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲9.4**（前期**▲37.5**）でプラス**28.1**、受注残のDIは**▲15.6**（前期**▲40.6**）でプラス**25.0**、収益のDIも**▲28.1**（前期**▲39.1**）とプラス**11.0**ポイントでいずれも減少幅は縮小、減少に歯止めがかかっている。価格の面では、原材料価格のDIは**▲85.9**（前期**▲67.2**）で**▲18.7**ポイントと上昇が強まった。また、販売価格のDIにおいては**29.7**（前期**10.9**）とプラス**18.8**ポイントで上昇と答えた企業の割合が増加している。資金繰りのDIは、**▲12.5**（前期**▲4.7**）と**▲7.8**ポイントで厳しさが増している。借入れをした企業は**18.8%**（前期**19.4%**）、設備投資の実施をした企業は**41.9%**（前期**42.0%**）であった。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**1.6**（前年同期**20.6**）と**▲19.0**ポイントで増加幅が減少、収益のDIは**▲25.0**（前年同期**19.0**）と**▲44.0**ポイントで水面下へ落ち込んだ。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲29.7**（今期**▲17.2**）と**12.5**ポイント下降で、厳しさを増す予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲6.3**（今期**▲9.4**）と**3.1**ポイント上昇、収益のDIについても**▲27.0**（今期**▲28.1**）と**1.1**ポイント上昇、また、受注残のDIにおいても**▲9.5**（今期**▲15.6**）と**6.1**ポイント上昇でいずれも減少幅が縮小すると予想している。原材料価格のDIは**▲71.4**（今期**▲85.9**）と上昇はやや弱まる予想であるが、販売価格のDIにおいても**22.2**（今期**29.7**）と上昇は弱まる予想である。資金繰りのDIは**▲20.6**（今期**▲12.5**）と窮屈感は強まる見通しである。借入れを予定している企業は**18.8%**（今期実施**18.8%**）、設備投資の実施を予定している企業は**45.6%**（今期実施**41.9%**）となっている。

### ◆DI指数推移

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲11.1	▲4.8	▲6.1	▲18.8	▲17.2	▲29.7
売 上 額	4.8	6.5	▲1.5	▲37.5	▲9.4	▲6.3
受 注 残	▲4.8	1.6	▲1.5	▲40.6	▲15.6	▲9.5
収 益	3.2	▲14.5	▲3.0	▲39.1	▲28.1	▲27.0
販 売 価 格	7.9	▲1.6	3.0	10.9	29.7	22.2
原 材 料 価 格	▲46.0	▲43.5	▲68.2	▲67.2	▲85.9	▲71.4
原 材 料 在 庫	▲4.8	0.0	3.0	15.6	10.9	14.3
資 金 繰 り	▲4.8	▲3.2	1.5	▲4.7	▲12.5	▲20.6

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
借 入 実 施	し た	33.3	17.7	21.2	19.4	18.8
	し ない	66.7	82.3	78.8	80.6	81.2
借 入 難 易 度	容 易	14.5	11.3	13.8	7.8	10.9
	不 変	67.7	72.6	63.1	68.8	78.1
	難	4.8	6.5	7.7	9.4	4.7
	該 当 な し	13.0	9.6	15.4	14.0	6.3

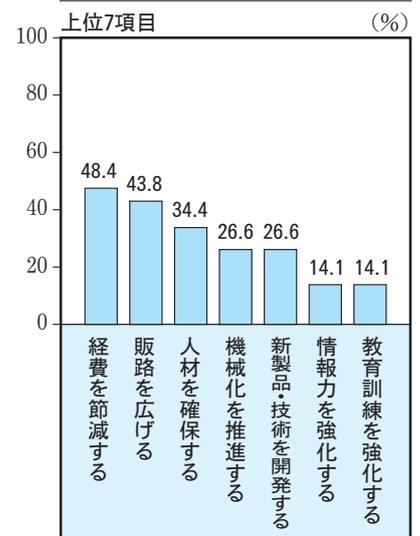
### ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
実 施	し た	56.6	47.9	44.3	42.0	41.9
	し ない	43.4	52.1	55.7	58.0	58.1
状 況	過 剰	6.3	3.2	1.5	3.1	1.6
	適 正	73.1	74.2	80.0	76.6	81.2
	不 足	20.6	22.6	18.5	20.3	17.2
DI	▲14.3	▲19.4	▲17.0	▲17.2	▲15.6	▲17.5

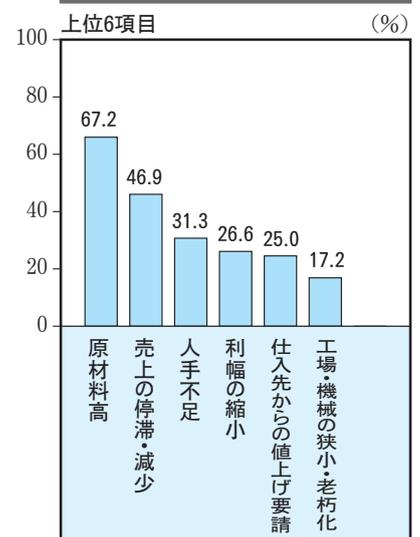
### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
残 業 時 間	増 加	27.4	38.7	40.9	20.3	14.1
	不 変	56.5	46.8	47.0	64.1	62.5
	減 少	16.1	14.5	12.1	15.6	23.4
人 手	過 剰	14.3	6.5	7.6	7.9	6.3
	適 正	55.5	59.6	51.5	60.4	65.6
	不 足	30.2	33.9	40.9	31.7	28.1

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業 (調査先企業42社 うち回答企業42社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は16.7%（前期25.6%）、悪かったとする企業は26.2%（前期20.5%）で、DIは▲9.5（前期は5.1）と▲14.6ポイントでマイナスに転じた。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲19.0（前期▲2.6）と▲16.4ポイント、収益のDIは▲28.6（前期▲2.6）で▲26.0ポイント、施工高のDIは▲16.7（前期12.8）で▲29.5ポイントと、いずれにおいても改善傾向が見られるが、受注残のDIにおいては▲4.8（前期▲7.7）とプラス2.9ポイントで改善されている。価格面では、請負価格のDIは7.1（前期▲7.7）と下降から上昇に転じ、材料価格のDIは▲85.7（前期▲87.2）でプラス1.5ポイントと上昇したとする企業の割合がやや減少した。資金繰りのDIは7.3（前期▲20.5）とプラス27.8ポイントで窮屈感を脱している。借入れをした企業は34.1%（前期44.7%）、設備投資の実施をした企業は41.3%（前期31.4%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲11.9（前年同期▲15.4）と水面下ながら3.5ポイント上昇、収益のDIは▲23.8（前年同期▲17.9）と▲5.9ポイントで、減少幅が拡大してきている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは▲9.8（今期▲9.5）と0.3ポイント下降、やや悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは0.0（今期▲19.0）で回復する予想、収益のDIは▲19.0（今期▲28.6）とプラス9.6ポイントで回復の兆しがあるものの、受注残のDIについては▲9.5（今期▲4.8）と▲4.7ポイントで減少幅が増加する見通しである。価格面では、請負価格のDIは16.7（今期7.1）とプラス9.6で上昇傾向を強めたものの、材料価格のDIにおいては▲81.0（今期▲85.7）とプラス4.7ポイントで上昇はやや弱まる見通しである。資金繰りのDIは0.0（今期7.3）と窮屈感は解消される見通しである。借入れを予定している企業は28.2%（今期実施34.1%）、設備投資の実施を予定している企業は43.5%（今期実施41.3%）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲12.8	▲7.9	11.1	5.1	▲9.5	▲9.8
売 上 額	▲25.6	▲7.7	▲2.8	▲2.6	▲19.0	0.0
受 注 残	▲12.8	2.6	8.6	▲7.7	▲4.8	▲9.5
収 益	▲25.6	▲20.5	▲5.6	▲2.6	▲28.6	▲19.0
販 売 価 格	▲5.1	▲5.1	2.8	▲7.7	7.1	16.7
原 材 料 価 格	▲64.1	▲71.8	▲83.3	▲87.2	▲85.7	▲81.0
原 材 料 在 庫	▲5.3	2.6	▲2.8	▲5.3	▲9.8	▲9.8
資 金 繰 り	▲7.7	▲10.3	▲13.9	▲20.5	7.3	0.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	34.2	28.9	40.0	44.7	34.1	28.2
	しない	65.8	71.1	60.0	55.3	65.9	71.8
借 入 難 易 度	容 易	8.1	13.2	14.7	7.9	7.5	—
	不 変	75.7	73.7	70.6	71.1	70.0	—
	難	0.0	5.3	2.9	7.9	7.5	—
	該当なし	16.2	7.8	11.8	13.1	15.0	—

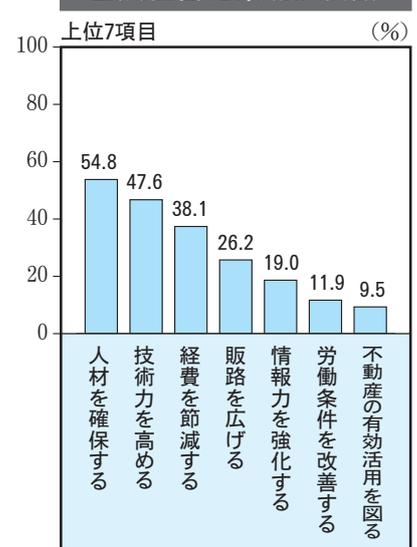
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	55.8	40.5	35.1	31.4	41.3	43.5
	しない	44.2	59.5	64.9	68.6	58.7	56.5
状 況	過 剰	0.0	5.3	0.0	2.6	2.4	0.0
	適 正	92.1	84.2	88.9	86.9	90.5	90.2
	不 足	7.9	10.5	11.1	10.5	7.1	9.8
DI	▲7.9	▲5.2	▲11.1	▲7.9	▲4.7	▲9.8	

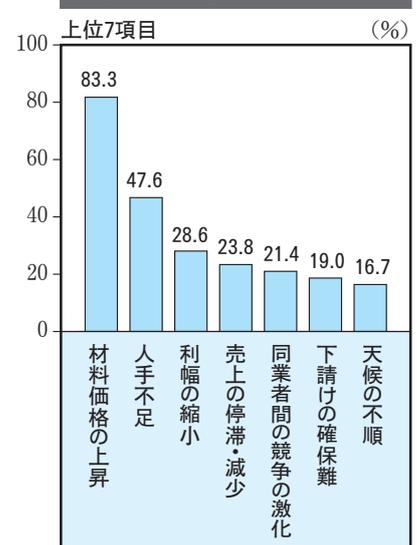
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	13.2	12.8	13.9	7.7	4.9	10.0
	不 変	68.4	79.5	75.0	69.2	70.7	82.5
	減 少	18.4	7.7	11.1	23.1	24.4	7.5
人 手	過 剰	2.6	0.0	0.0	0.0	4.9	2.4
	適 正	53.8	38.5	27.8	53.8	51.2	46.4
	不 足	43.6	61.5	72.2	46.2	43.9	51.2

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



## 卸 売 業 (調査先企業9社 うち回答企業8社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は12.5%（前期0.0%）、悪かったとする企業は25.0%（前期55.6%）となり、DIも▲12.5（前期▲55.6）とプラス43.1ポイントで厳しさは和らいでいる。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは37.5（前期▲55.6）と93.1ポイント、収益のDIも37.5（前期▲44.4）とプラス81.9ポイントで水面下を脱している。販売価格のDIは62.5（前期77.8）と15.3ポイント減少で上昇傾向は弱まった。仕入価格のDIについても▲87.5（前期▲77.8）と▲9.7ポイントで上昇したと答えた企業の割合が増加した。資金繰りのDIは0.0（前期▲11.1）で窮屈感は脱した。借入れをした企業は25.0%（前期33.3%）、設備投資の実施をした企業は0.0%（前期22.2%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは25.0（前年同期44.4）で▲19.4ポイントで軟調に、収益のDIにおいても0.0（前年同期44.4）で▲44.4ポイントで増勢は一服となった。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは▲12.5（今期▲12.5）で今期と変わらない予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは0.0（今期37.5）、収益のDIにおいても0.0（今期37.5）でいずれも▲37.5ポイントで来期増加は一服の見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは37.5（今期62.5）と上昇幅の縮小を予想しているが、仕入価格のDIにおいては▲75.0（今期▲87.5）と厳しい中でもやや緩和される見通しである。資金繰りのDIは0.0（今期0.0）と変わらない予想である。借入れを予定している企業は12.5%（今期実施25.0%）、設備投資の実施を予定している企業は0.0%（今期実施0.0%）となっている。

## ◆DI指数推移

(%)

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲55.6	▲37.5	▲37.5	▲55.6	▲12.5	▲12.5
売 上 額	11.1	▲50.0	▲12.5	▲55.6	37.5	0.0
収 益	0.0	▲25.0	12.5	▲44.4	37.5	0.0
販 売 価 格	33.3	37.5	50.0	77.8	62.5	37.5
仕 入 価 格	▲44.4	▲50.0	▲87.5	▲77.8	▲87.5	▲75.0
在 庫	11.1	12.5	0.0	11.1	▲12.5	▲12.5
資 金 繰 り	11.1	0.0	12.5	▲11.1	0.0	0.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	22.2	25.0	25.0	33.3	25.0	12.5
	しない	77.8	75.0	75.0	66.7	75.0	87.5
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	—
	不 変	66.7	75.0	62.5	66.7	50.0	—
	難	11.1	12.5	12.5	11.1	12.5	—
	該当なし	22.2	12.5	25.0	22.2	25.0	—

## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

(%)

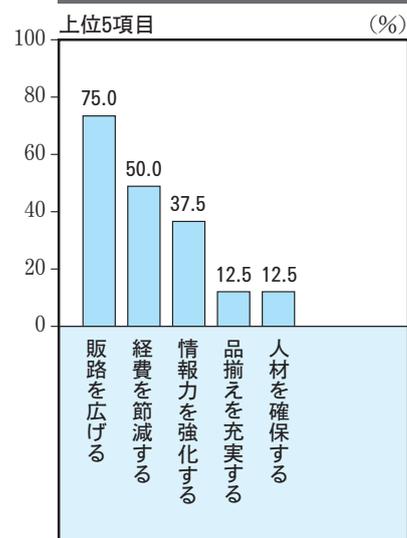
	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	0.0	0.0	25.0	22.2	0.0	0.0
	しない	100.0	100.0	75.0	77.8	100.0	100.0
状 況	過 剰	11.1	0.0	0.0	11.1	12.5	12.5
	適 正	88.9	100.0	100.0	88.9	87.5	87.5
	不 足	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
DI	11.1	0.0	0.0	11.1	12.5	12.5	

## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

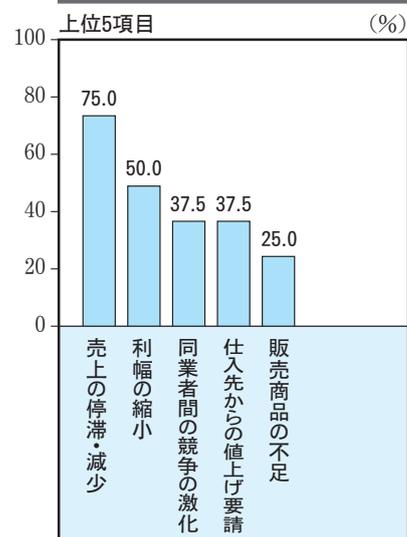
(%)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	22.2	12.5	25.0	11.1	12.5	12.5
	不 変	77.8	87.5	75.0	77.8	87.5	87.5
	減 少	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
人 手	過 剰	22.2	0.0	12.5	11.1	0.0	0.0
	適 正	66.7	87.5	75.0	77.8	100.0	87.5
	不 足	11.1	12.5	12.5	11.1	0.0	12.5

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 小 売 業 (調査先企業37社 うち回答企業33社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**24.2%**（前期**18.8%**）、悪かったとする企業は**57.6%**（前期**53.1%**）、DIは**▲33.3**（前期**▲34.4**）とプラス1.1ポイントでやや改善しているものの依然厳しい状況は続いている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲3.0**（前期**▲29.0**）、**収益**のDIは**▲27.3**（前期**▲54.8**）とそれぞれプラス**26.0**ポイント、プラス**27.5**ポイントで、水面下ながら減少幅は改善されている。**販売価格**のDIは**30.3**（前期**6.5**）とプラス**23.8**ポイントで上昇傾向を強め、**仕入価格**のDIにおいては**▲54.5**（前期**▲63.3**）とプラス**8.8**ポイントで価格が上昇したとする企業の割合はやや減少した。**資金繰り**のDIは**▲12.1**（前期**▲16.1**）と窮屈感は緩和された。借入れをした企業は**12.5%**（前期**18.8%**）、**設備投資の実施**をした企業は**24.0%**（前期**7.1%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**18.2**（前年同期**▲36.7**）とプラス**54.9**ポイントで増勢に転じ、**収益**のDIも**▲6.1**（前年同期**▲50.0**）とプラス**43.9**ポイントで減益幅は縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲42.4**（今期**▲33.3**）と**▲9.1**ポイントで悪化は強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲18.8**（今期**▲3.0**）、**収益**のDIは**▲34.4**（今期**▲27.3**）とそれぞれ**▲15.8**ポイント、**▲7.1**ポイントでどちらも減少幅が拡大する見通しである。**販売価格**のDIは**18.8**（今期**30.3**）と上昇傾向は弱まり、**仕入価格**のDIも**▲46.9**（今期**▲54.5**）と上昇はやや弱まる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲21.9**（今期**▲12.1**）と窮屈感は強まる予想となった。借入れを予定している企業は**9.4%**（今期実施**12.5%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**12.0%**（今期実施**24.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲70.0	▲66.7	▲40.0	▲34.4	▲33.3	▲42.4
売 上 額	▲63.3	▲33.3	30.0	▲29.0	▲3.0	▲18.8
収 益	▲70.0	▲53.3	13.3	▲54.8	▲27.3	▲34.4
販 売 価 格	10.0	▲3.3	37.9	6.5	30.3	18.8
仕 入 価 格	▲30.0	▲43.3	▲63.3	▲63.3	▲54.5	▲46.9
在 庫	6.7	3.3	3.3	▲3.2	12.1	6.3
資 金 繰 り	▲20.0	▲10.0	▲10.0	▲16.1	▲12.1	▲21.9

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	6.7	13.3	6.9	18.8	12.5	9.4
	しない	93.3	86.7	93.1	81.2	87.5	90.6
借 入 難 易 度	容 易	10.0	13.3	14.3	10.0	9.7	—
	不 変	63.3	66.7	57.1	60.0	54.8	—
	難	6.7	6.7	14.3	10.0	19.4	—
	該当なし	20.0	13.3	14.3	20.0	16.1	—

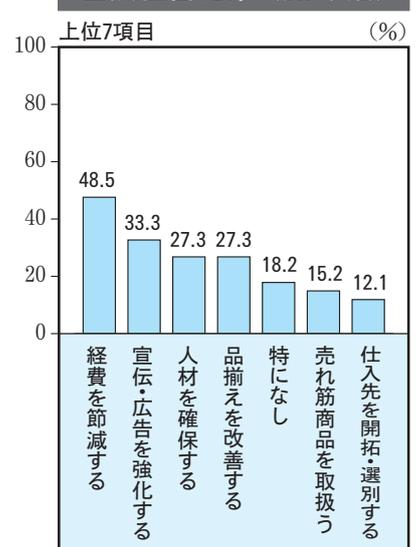
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	12.5	19.2	32.1	7.1	24.0	12.0
	しない	87.5	80.8	67.9	92.9	76.0	88.0
状 況	過 剰	6.9	6.9	3.3	16.1	9.4	9.4
	適 正	82.8	72.4	83.4	61.3	81.2	78.1
	不 足	10.3	20.7	13.3	22.6	9.4	12.5
DI	▲3.4	▲13.8	▲10.0	▲6.5	0.0	▲3.1	

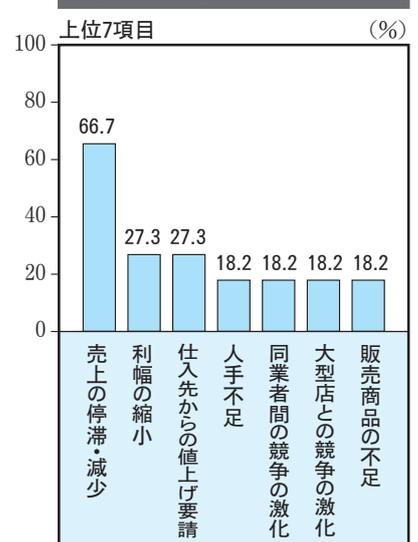
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	0.0	3.4	10.0	3.1	6.1	9.1
	不 変	75.0	82.8	83.3	84.4	87.8	84.8
	減 少	25.0	13.8	6.7	12.5	6.1	6.1
人 手	過 剰	10.0	6.7	3.3	12.5	3.0	3.0
	適 正	80.0	73.3	63.4	59.4	66.7	57.6
	不 足	10.0	20.0	33.3	28.1	30.3	39.4

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



# サービス業

(調査先企業26社 うち回答企業24社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**12.5%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**66.7%**（前期**85.7%**）、DIは**▲41.7**（前期**▲85.7**）でプラス**31.5**ポイントと厳しさが和らいでいる。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**8.3**（前期**▲76.2**）でプラス**84.5**ポイントで好調に転じ、**収益**のDIにおいても**0.0**（前期**▲66.7**）で回復基調となった。**料金価格**のDIは**25.0**（前期**▲4.8**）と上昇へ転じたものの、**仕入価格**のDIでは**▲87.5**（前期**▲57.1**）と**▲30.4**ポイントで上昇幅は拡大している。**資金繰り**のDIは**▲16.7**（前期**▲38.1**）とプラス**21.4**ポイントで窮屈感が緩和されている。**借入れ**をした企業は**16.7%**（前期**10.0%**）、**設備投資の実施**をした企業は**25.0%**（前期**10.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**12.5**（前年同期**▲20.0**）とプラス**32.5**ポイントで水面下を脱している。**収益**のDIも**▲8.3**（前年同期**▲40.0**）でプラス**31.7**ポイント水面下ながら減益幅が縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲41.7**（今期**▲54.2**）と水面下ながら**12.5**ポイント改善する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**8.3**（今期**8.3**）で好調を維持、**収益**のDIにおいては**4.2**（今期**0.0**）と好調感が表れる予想である。**仕入価格**のDIは**▲83.3**（今期**▲87.5**）と**4.2**ポイント緩和される見通し、また、**料金価格**のDIは**29.2**（今期**25.0**）とプラス**4.2**ポイントで上昇傾向の見通しである。**資金繰り**のDIは**▲20.8**（今期**▲16.7**）と窮屈感は強まる見通しである。**借入れ**を予定している企業は**16.7%**（今期実施**16.7%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**15.0%**（今期実施**25.0%**）となっている。

## ◆DI指数推移

(%)

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲84.2	▲78.3	▲50.0	▲85.7	▲54.2	▲41.7
売 上 額	▲60.0	▲39.1	▲16.7	▲76.2	8.3	8.3
収 益	▲55.0	▲47.8	▲8.3	▲66.7	0.0	4.2
料 金 価 格	15.0	8.7	4.2	▲4.8	25.0	29.2
材 料 価 格	▲20.0	▲21.7	▲54.2	▲57.1	▲87.5	▲83.3
資 金 繰 り	▲45.0	▲26.1	▲20.8	▲38.1	▲16.7	▲20.8

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	し た	30.0	9.1	16.7	10.0	16.7	16.7
	し ない	70.0	90.9	83.3	90.0	83.3	83.3
借 入 難 易 度	容 易	15.8	4.3	4.3	0.0	4.3	—
	不 変	63.2	65.2	69.6	60.0	65.2	—
	難	5.3	8.7	8.7	20.0	8.7	—
	該 当 なし	15.7	21.8	17.4	20.0	21.8	—

## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

(%)

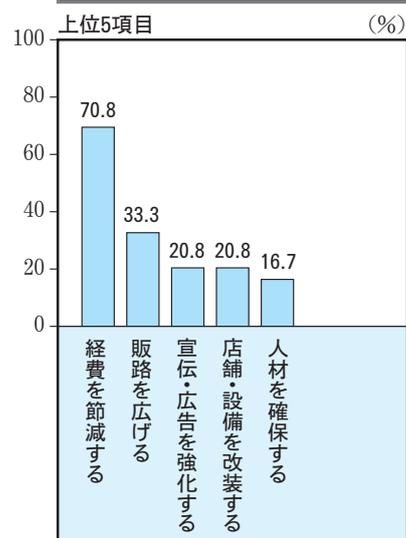
	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	し た	15.8	9.1	13.0	10.0	25.0	15.0
	し ない	84.2	90.9	87.0	90.0	75.0	85.0
状 況	過 剰	10.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.8
	適 正	70.0	78.3	78.3	78.9	65.3	71.4
	不 足	20.0	21.7	21.7	21.1	30.4	23.8
DI	▲10.0	▲21.7	▲21.7	▲21.1	▲26.1	▲19.0	

## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

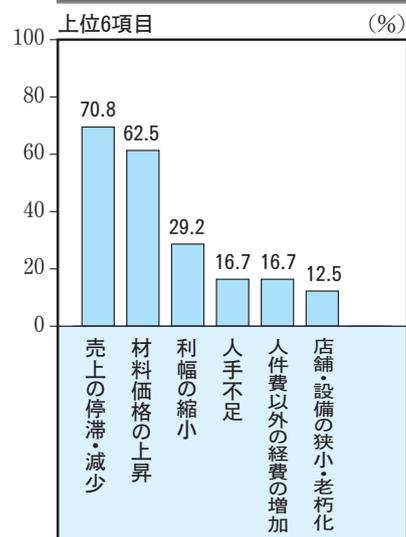
(%)

	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	5.0	4.5	13.0	0.0	9.1	18.2
	不 変	70.0	54.6	69.6	73.7	77.3	68.2
	減 少	25.0	40.9	17.4	26.3	13.6	13.6
人 手	過 剰	25.0	8.7	8.3	14.3	4.2	0.0
	適 正	45.0	60.9	62.5	61.9	62.5	70.8
	不 足	30.0	30.4	29.2	23.8	33.3	29.2

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



# 不動産業

(調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**16.7%**（前期**40.0%**）、悪かったとする企業は**0.0%**（前期**0.0%**）で、DIは**16.7**（前期**40.0**）と**▲23.3**ポイントで前期を下回る良好感となった。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲16.7**（前期**40.0**）と**▲56.7**ポイントで水面下に落ち込み、**収益**のDIは**0.0**（前期**40.0**）で**▲40.0**ポイントと減少の兆しが見られる。価格面においては、**販売価格**のDIは**33.3**（前期**20.0**）で**プラス13.3**ポイントと上昇幅は拡大、**仕入価格**のDIは**▲33.3**（前期**▲20.0**）と**▲13.3**ポイントで上昇が強まっている。**資金繰り**のDIは、**0.0**（前期**0.0**）で窮屈感無く安定している。**借入れ**をした企業は**50.0%**（前期**40.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**33.3**（前年同期**▲50.0**）、**収益**のDIも**50.0**（前年同期**▲50.0**）でそれぞれ**プラス83.3**ポイント、**プラス100.0**ポイントで増加に転じている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**16.7**（今期**16.7**）と好調を維持する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**0.0**（今期**▲16.7**）で回復予想、**収益**のDIは**0.0**（今期**0.0**）で変わらない見通しである。**販売価格**のDIは**33.3**（今期**33.3**）と安定、**仕入価格**のDIにおいては**▲33.3**（今期**▲33.3**）で上昇する見通しと答えた企業の割合は変わらなかった。**資金繰り**のDIは**0.0**（今期**0.0**）と引続き安定する見通しである。**借入れ**を予定している企業は**50.0%**（今期実施**50.0%**）となっている。

## ◆DI指数推移

（%）

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲16.7	▲20.0	0.0	40.0	16.7	16.7
売 上 額	▲50.0	▲20.0	0.0	40.0	▲16.7	0.0
収 益	▲50.0	▲40.0	20.0	40.0	0.0	0.0
販 売 価 格	▲33.3	0.0	40.0	20.0	33.3	33.3
仕 入 価 格	16.7	▲20.0	▲60.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3
在 庫	▲33.3	▲20.0	20.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3
資 金 繰 り	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

（%）

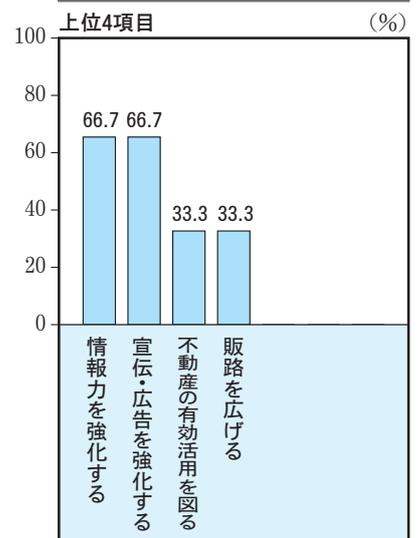
	2021年			2022年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	し た	33.3	40.0	40.0	40.0	50.0	50.0
	し ない	66.7	60.0	60.0	60.0	50.0	50.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 なし	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	—

## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

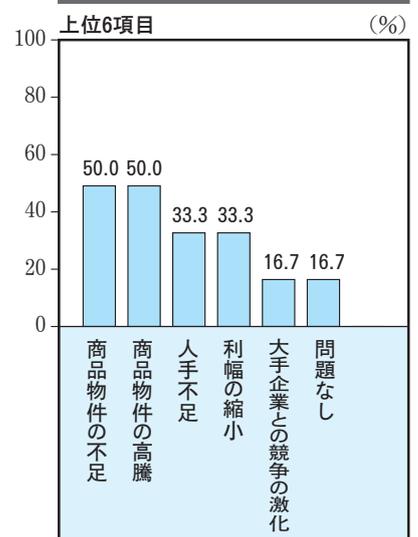
（%）

	2021年			2022年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3
	減 少	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	60.0	100.0	100.0	66.7
	不 足	0.0	40.0	0.0	0.0	33.3

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 特別調査

## 「混迷する経済社会情勢と中小企業経営」

—コロナ、原材料価格高騰、海外情勢の緊迫化を受けて—

## 問1 貴社では、最近の経済社会情勢について、特に懸念しているものはありますか。

総合的に見ると、「原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰」と回答した企業が最も多く全体の**38.4%**、続いて「人手不足、人件費上昇」が**16.3%**、「エネルギー以外の価格高騰」が**13.0%**、「原材料の仕入れ不可能」が**10.0%**、「戦争、紛争がもたらす社会不安」が**9.1%**の順であった。「特に懸念しているものはない」と回答した企業は無く、経済社会情勢に何らかの懸念を感じている。

業種別に見ると全ての業種で「原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰」の回答が最も多く、その割合は、サービス業が**42.9%**、建設業が**41.0%**、製造業が**37.9%**、小売業が**36.8%**、卸売業は「エネルギー以外の価格高騰」と同率で**28.6%**、不動産業では「人手不足、人件費上昇」と「米中貿易摩擦」とも同率で**22.2%**となった。(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰	38.4	37.9	41.0	28.6	36.8	42.9	22.2
2. エネルギー以外の価格高騰	13.0	8.1	12.8	28.6	17.5	16.3	11.1
3. 原材料の仕入れ不可能	10.0	13.7	9.0	7.1	7.0	8.2	0.0
4. コロナ長期化による需要急減	6.0	4.0	2.6	14.3	10.5	10.2	0.0
5. 人手不足、人件費上昇	16.3	16.9	24.4	14.3	8.8	10.2	22.2
6. 日本と諸外国との関係	5.1	5.6	5.1	0.0	5.3	4.1	11.1
7. 米中貿易摩擦	1.5	0.8	1.3	0.0	1.8	0.0	22.2
8. 戦争、紛争等がもたらす社会不安	9.1	12.1	3.8	7.1	10.5	8.2	11.1
9. その他	0.6	0.8	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
10. 特に懸念しているものはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 問2 貴社では、最近の原油・天然ガスなどのエネルギー価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。また、今後、省エネにつながる設備投資を実施する予定はありますか。

総合的に見ると、「多少悪影響がある」とした企業が最も多く全体の**55.7%**、続いて「かなり悪影響がある」が**31.0%**、「ほとんど影響はない」が**5.2%**、「わからない」**4.6%**、「危険な悪影響がある」**2.9%**の順であった。また、「むしろ好影響がある」と回答した企業はなかった。業種別に見ても「多少悪影響がある」がすべての業種において最も多い回答となった。

「省エネにつながる設備投資を実施する予定」について総合的に見ると「実施予定はない」の回答が全体の**90.6%**を占めた。業種別に見ると、卸売業と不動産業では「実施予定はない」の回答は**100.0%**であった。また、「実施予定がある」との回答があった業種と割合は、製造業が**13.3%**、小売業が**12.5%**、建設業が**7.3%**、サービス業では**4.3%**であった。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
収益への影響	1. 危機的な悪影響がある	2.9	3.2	0.0	0.0	6.3	4.2
	2. かなり悪影響がある	31.0	41.9	28.6	0.0	28.1	29.2
	3. 多少悪影響がある	55.7	48.4	66.7	87.5	43.8	58.3
	4. ほとんど影響はない	5.2	3.2	0.0	12.5	9.4	4.2
	5. むしろ好影響がある	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6. わからない	4.6	3.2	4.8	0.0	9.4	4.2
	7. その他	0.6	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
省エネ	8. 実施予定がある	9.4	13.3	7.3	0.0	12.5	4.3
	9. 実施予定はない	90.6	86.7	92.7	100.0	87.5	95.7

## 問3 企業や団体などを標的としたサイバー攻撃による被害が数多く報告されています。貴社は、サイバー攻撃による被害を受けたことがありますか。また、サイバーセキュリティーを確保するため、人材を確保し、態勢を整備していますか。

サイバー攻撃による被害を総合的に見ると、「攻撃を受けたことはない」とした企業が最も多く**87.9%**、続いて「攻撃を受けたが被害はなかった」が**11.0%**、「攻撃を受けて被害があった」が**1.2%**であった。これを業種別に見ると、どの業種も「攻撃を受けたことはない」という企業が最も多かったが、「攻撃を受けて被害があった」という企業は製造業に1社、卸売業に1社あった。

サイバーセキュリティーを確保するための人材確保や態勢の整備について総合的に見ると「できていない」の回答が全体の**41.3%**、「できている」と「わからない」がそれぞれ**19.2%**の回答であった。また、「当社には関係ない」と回答した企業は**20.3%**であった。「できている」と回答した業種で最も多かったのは製造業で**24.6%**、次に建設業で**19.0%**、サービス業が**16.7%**、小売業が**16.1%**、卸売業が**12.5%**の順であった。不動産業では「できている」の回答は無く、「当社には関係ない」の回答では最も多い業種で**33.3%**であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
サイバー攻撃	1. 攻撃を受けて被害があった	1.2	1.6	0.0	12.5	0.0	0.0
	2. 攻撃を受けたが被害はなかった	11.0	16.1	9.5	12.5	9.7	16.7
	3. 攻撃を受けたことはない	87.9	82.3	90.5	75.0	90.3	83.3
人材の確保	4. できている	19.2	24.6	19.0	12.5	16.1	16.7
	5. できていない	41.3	41.0	40.5	50.0	41.9	37.5
	6. わからない	19.2	18.0	23.8	12.5	16.1	20.8
	7. 当社には関係ない	20.3	16.4	16.7	25.0	25.8	25.0

## 問 4

経済社会情勢の混迷の中で政府から賃上げが要請されていますが、貴社では、今春、賃上げを実施しましたか。

総合的に見ると「賃上げした」企業が**47.1%**、「賃上げしなかった」企業が**52.9%**であった。「賃上げした理由」で最も多かったのは「従業員の待遇改善」で**30.5%**、次に「自社の業績改善を反映」が**9.2%**、「政府の賃上げ要請」**4.0%**、「同業他社、地域他社の賃上げ」**2.9%**の順であった。「賃上げしなかった理由」で最も多かったのは「自社の業績状況」で**23.0%**、次に「景気見通しが不透明」が**12.1%**、「賃上げを検討したことがない」**9.2%**、「これまでに賃上げを実施済み」**5.7%**の順であった。

業種別に見ると「賃上げした」企業のほうが多かった業種は、製造業と建設業で、それぞれ**63.5%**、**52.4%**であった。また「賃上げしなかった」企業が多かった業種は、不動産業が**83.3%**、小売業が**77.4%**、卸売業が**75.0%**、サービス業が**58.3%**の順であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
賃上げした理由	1. 政府の賃上げ要請	4.0	4.8	4.8	0.0	0.0	8.3
	2. 自社の業績改善を反映	9.2	12.7	11.9	0.0	3.2	8.3
	3. 同業他社、地域他社の賃上げ	2.9	3.2	2.4	0.0	3.2	0.0
	4. 従業員の待遇改善	30.5	42.9	33.3	25.0	12.9	25.0
	5. その他	0.6	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
しなかった理由	6. これまでに賃上げを実施済み	5.7	6.3	7.1	12.5	0.0	4.2
	7. 景気見通しが不透明	12.1	9.5	7.1	37.5	19.4	12.5
	8. 自社の業績状況	23.0	12.7	26.2	25.0	32.3	29.2
	9. 賃上げを検討したことがない	9.2	6.3	4.8	0.0	22.6	8.3
	10. その他	2.9	1.6	2.4	0.0	3.2	4.2

## 問 5

貴社では、コロナ禍を受けて、事業承継(M&Aを含む)についての考え方に変化はありましたか。

総合的に見ると「事業継承の方法に変更はない」の回答が最も多く**53.2%**、続いて「事業継承について考えたことがない」が**24.3%**、「事業継承の検討を始めた」が**11.0%**、「事業継承の時期を遅くする」が**1.7%**、「事業継承の後継者を変更する」と「事業継承予定だったが廃業を検討する」が**1.2%**の順となった。

業種別に見ても「事業継承の方法に変更はない」の回答が多い業種が多く、製造業が**61.3%**、建設業が**59.5%**、卸売業と不動産業が**50.0%**、小売業が**48.4%**の順であった。また、サービス業では「事業継承について考えたことがない」が**45.8%**で最も多い回答となった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 事業承継の方法に変更はない	53.2	61.3	59.5	50.0	48.4	29.2	50.0
2. 事業継承の検討を始めた	11.0	17.7	9.5	0.0	9.7	4.2	0.0
3. 事業継承の時期を早める	0.6	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
4. 事業継承の時期を遅くする	1.7	0.0	4.8	12.5	0.0	0.0	0.0
5. 事業継承の後継者を変更する	1.2	0.0	2.4	0.0	0.0	4.2	0.0
6. 事業継承予定だったが、廃業を検討する	1.2	1.6	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 事業継承予定だったが、予定を白紙に戻した	0.6	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
8. 事業継承予定だったが、事業を継続する	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9. その他	6.4	1.6	7.1	0.0	6.5	16.7	16.7
10. 事業継承について考えたことがない	24.3	17.7	14.3	37.5	29.0	45.8	33.3

## フリーローンあるプラス

お使いみち自由 お手続きカンタン

ご融資金額  
最高  
1,000万円  
(1万円単位)ご融資期間  
最長10年アルバイト  
パートの方も  
OK!

ご融資利率

年3.5%~年14.0%

